

Q.東北学院大学文学部英文学科に入学したきっかけを教えてください。

A.外国語をやっておけば仕事につながると思った。東北学院大学にはコミュニケーションを勉強することができる専攻があった。

Q.佐藤さんにとって大学とはどんなところでしたか。

A.自分をみつめるよい時間を与えてくれる4年間だった。こんなこともできるのかということがわかったり、いろいろな人がいるので、視野が広がった。また、大学2年生のときから、大学を続けながらエアライン就職をめざす人たちの専門学校に3年間通った。

Q.客室乗務員という仕事を選んだ理由を教えてください。

A.乗り物が好きで旅行に携わりたかった。また大学生のときに接客業のアルバイトをしていて、プロとして接客業務をやってみたいと思うようになった。

Q.現在の仕事の内容を教えてください。

A.接客している時間帯は飲み物のサービスなどを行っているが、搭乗前には非常事態に備えて一つひとつ救命胴衣などチェックしたり、搭乗したら、変な臭いがしないか、変な人はいないかなど五感を働かせて注意している。またお客様が何かを欲しがっているのを見逃さないように見ている。

Q.初めての乗務はどうでしたか。

A.緊張しっぱなしだった。1ヶ月半の訓練を終え、はじめての乗務が偶然にも庄内便だった。生まれたところに戻って来れたことがうれしかった。

Q.仕事をしていて苦労することなどはありますか。

A.天気が悪いときなど揺れたりするときに、サービスをするよりも保安が優先になる。

Q.仕事をする上で心がけていることは何ですか。

A.常に笑顔で接する。お客様と話すときに親しみやすいように心がけている。気軽に話しかけてもらえるようにしている。

Q.中央高校の生徒へメッセージをお願いします。

A.小さなことでも「これだけは続けている」ということが糧になるので、日常生活を大切に高校园生活を楽しんで欲しい。結果がどうであれ何かが生まれるので、どんどん挑戦してください。



# 県知事がやってきた!



生徒会執行部と一緒に記念撮影

昨年の11月28日、齋藤弘山形県知事が本校を訪問し、3年1組の生徒および生徒会執行部の皆さんと対談を行いました。関連記事が裏面にあります。

## 3年1組での歓談



# 部活動紹介

第8回

## バドミントン部

バドミントン部は、第2年次生16名、第1年次生21名の計37名で活動しています。男子は不本意な結果に終わりましたが、女子は新人戦地区大会で団体2位、シングルスで三浦春菜が優勝、ダブルスでも高橋・三浦ペアが優勝と、素晴らしい結果を残すことができました。11月に行われた県新人大会では惜しくも入賞は逃したものの、多くのものを学ぶことができました。

バドミントンというスポーツは簡単なイメージを持たれがちですが、瞬発力と持久力の両方を必要とし、集中力・精神力がプレーに現れやすい、意外に難しくハードなスポーツです。そのため、日頃からしっかり練習していないと本番の試合で勝つことはできません。

現在、バドミントン部には欠席者がいたり、集中力が続かなかったり、行動が遅いなど、多くの課題があります。しかし、これらの課題を克服し、一人ひとりが高い目標をもち、全員が満足できる結果を得られるように日々の練習を大切にしていきたいと思えます。



### 編集後記

『時代は中央』（第11号）は、「課題研究発表会」や「県知事来校」などを取材しました。

本校の総合学科においては各系列の特色を活かした仕事をを目指す生徒が大勢います。

今後も本校ならではの特色などを校外に情報発信していきたいと考えています。

### 山形県立鶴岡中央高等学校

〒997-0017 山形県鶴岡市大宝寺字日本国410  
TEL 0235-25-5724

ホームページアドレス <http://www.tsuruokachuo-h.ed.jp>

メールアドレス [kouhou@tsuruokachuo-h.ed.jp](mailto:kouhou@tsuruokachuo-h.ed.jp)

(問合せ先)

広報担当: 金谷 伸一, 井上 祐, 小沼 佳奈子

# 修学旅行 (第2年次)

## 修学旅行の概要

- 11月19日: 大阪 (クラス別研修)
- 11月20日: 京都 (クラス別研修)
- 11月21日: 京都 (班別研修)
- 11月22日: 京都

### クラス別研修の主な行き先:

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、道頓堀、海遊館、大阪城、アメリカ村、清水寺



# 平成19年度 課題研究発表会

平成19年度総合学科「課題研究発表会」が12月14日(金)に本校体育館において開催されました。

P.T.A.、学校評議員、学校関係者のご来賓7名の方をお迎えし、総合学科第1年次、第2年次、第3年次の全生徒が一同に会しての発表会です。

今年度は、第1部として第1年次生の「産業社会と人間」で実施したインターシップの体験発表を代表3名が行いました。また、第2年次生は「総合学習(総合的な学習の時間)」で夏季休業中に取り組んだ課題学習(「インターシップ」、「ボランティア活動」、「オープンキャンパス参加による進学先探求」、「ミニ課題研究」から選択し実践)の報告発表を代表2名が行いました。第2部として、第3年次生による「課題研究」の各講座から選ばれた代表12名が発表を行いました。系列の専門科目の学びを更に深化・発展させるテーマを設定し、研究成果をプレゼンテーションソフトや映像、音響、実演などを交えながら堂々と発表することができました。



特別発表として、家政科学系列被服系の生徒による「ファッションショー」は、会場が体育館であることを忘れてしまうほどの演出に歓喜に包まれました。生徒17名によってデザイン、制作された68点の作品は、2年間の学習の成果が十分に発揮されていました。

また県研究指定である「高校生による観光資源発掘事業」では、情報科学系列の生徒によって「あつみで創ろう、思い出を ~君のほっぺも夕陽色~」と題し、地元にながら知らなかったあつみの観光資源を紹介していて、是非行ってみたいという声が多く聞かれました。

最後に、本県にある5校が参加して行った総合学科高校発表交流会の報告がありました。今年度は、家政科学系列保育系の第3年次生3名が代表として参加し、自分たちが発表したことや他校の様子などを報告するとともに、最後には全生徒とともに「手遊びうた」を実践し「課題研究発表会」を締めくくりました。4時間もの「課題研究発表会」がとても早く感じる、充実した発表会になったと思います。

## < 生徒感想 >

今回の「課題研究発表会」は最後になったが、実行委員として発表者を支えることができたと思う。一方的な発表ではなく、見る側と一体になっていてすばらしいと思った。一年間を通して一つのことを研究したことは、これからのためにも大事なものになると思う。(3年男子)

どの発表も精一杯頑張ってきた努力の結晶でした。課題研究発表を通して新たに知った知識がたくさんあってとてもためになりました。他の系列の授業は普段では知ることはできませんが、この発表でとてもすばらしい体験ができて良かったです。ファッションショーではいつもと違う面がたくさん見られて一人ひとりが輝いているように見えました。とても感動して寒さを忘れるくらい見入ってしまいました。(3年女子)

初めて「課題研究発表会」を見て、学習の深さに驚きました。一つのテーマを研究するために実際に現場に行ったり、作ったりしていることがすごいです。発表者の態度も良かったと思いました。私たちも先輩方のようにできたらいいなと思いました。ファッションショーをして、作品発表するなど総合学科の良さが出ていたと思います。(1年女子)

今回の「課題研究発表会」は、僕にとって初めてどのようなものかわかりませんでした。実際に聞いてみて、どれも詳しく調べてありました。特に印象に残ったことは、国際交流系列の「小学校英語教育について」です。アンケートを実際に小学校に持っていき調査したと聞いた時は、その行動力に驚きました。

僕も3年生になったら発表する機会があるかもしれません。その時は、今日以上の発表をしたいと思いました。(1年男子)

2回目の「課題研究発表会」で、僕が一番注目したのは「サプリメント」でした。僕も、発表していた方と同じで、栄養に関する職に就きたいと考えていますので、この発表はおもしろかったです。サプリメントには添加物がたくさん使われているということでサプリメントに対する見方も変わりました。来年は、僕たちが主役なので今まで以上に良いものを創り上げていきたいです。(2年男子)

今まで自分になかった知識を学ぶことができ、また、工夫を凝らしてあって興味をそそられる発表ばかりでした。今回の発表は、中央生の個性や才能にあふれていたものだったと感動しました。これから始める課題研究の参考、意欲にもなり、これから自分がどのように研究しているのかと考えさせられました。発表会が年々進化しているので、来年はもっと拡大してすばらしいものにしたいと思いました。

(2年女子)



# 齊藤県知事と対談して

生徒会執行部の生徒が齋藤県知事と本校会議室で30分間にわたって対談したことについての感想です。



・私は知事に「今の高校生に求めることはありますか?」とお聞きした時に知事は「世界で活躍してほしい。」と言われたことがとても心に残りました。

私は将来、世界で活躍して世界中の人々に山形のことを知ってもらいたいと思いました。

・私は知事との対談でリーダーというものの「心」を学びました。知事は、自分の安定した職を捨ててまで、この元気のない山形を元気にさせようと思選挙に出馬したそうです。リーダーというものは、強い思いを持っていなければ務まらないと改めて再認識しました。

・知事は、初めて山形県の借金を減らすことに成功しています。なぜそのようなことができたかという、「情熱」を持ち山形県を変えようとする意識があったからです。それだけでなく「夢」を持っていたからこのような実績を持つことができたとも言えます。「叶えることができるのは夢しかない。」これは知事がいつも思っている言葉です。この言葉は知事だけでなくみなさんにもあてはまる言葉です。自分も「夢」への「情熱」の火を消すことなく生活していきたいです。

・齋藤知事との対談を通し、リーダーに必要なことは、学校を変えたいという「情熱」を持つことだと学びました。また、叶えるのは「夢」だけであるということも学びました。

山形県には「兆」の単位がつくほどの借金があるということを知って驚きました。これからの山形県は私達の世代にかかっていると思うので、山形県民として頑張っていかなければならないと思いました。

山形県知事との対談という、貴重な経験ができ本当に光栄だと思いました。

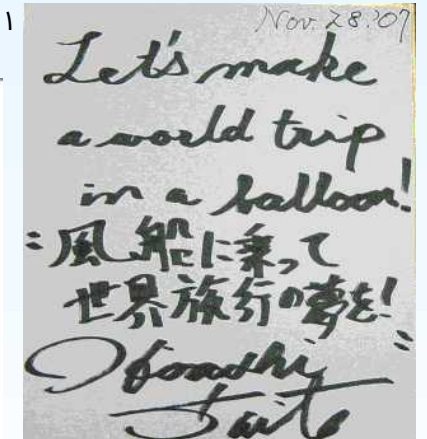
・山形県知事との対談ということで、始まる前は、知事は気難しい方で堅苦しい雰囲気の中での対談になってしまうのではないかと感じていました。しかし、知事は私が想像していた方とは違い、とても明るく優しい方で和やかな雰囲気で対談することができました。

また知事は私達のどのような質問にも答えてくださり、生徒会執行部や委員長にいろいろなことを教えてくださいました。

・県知事と対談をして、リーダーとしての心構えなどを聞くことができとても為になりました。「女性も積極的に社会に参加して活躍して欲しい。」の知事のお言葉を聞いた時、私も頑張ることに貢献していきたいと思いました。

今回、知事との対談という貴重な経験ができ、素晴らしい思い出になりました。

生徒会執行部の一人一人に手渡された知事の貴重な名刺と3年1組に贈られた色紙



## こんな活躍をしている生徒もいます

日本学生科学賞山形県審査「松の葉で環境を調べよう パート4」  
優秀賞 2年4組 工藤康(三川中)

高校生ファッションデザイン画コンクール  
山形市長賞 2年8組 富樫彩(鶴岡四中)  
原田理事長賞 2年7組 生田史織(朝日中)

全日本きもの装いコンテストきものフェスティバル東北大会  
女性の部 振り袖部門1位 2年5組 橋本絵理子(鶴岡一中)

